

日本バプテスト連盟諸教会・伝道所御中

日本バプテスト連盟  
常務理事 吉高 叶

## ～ネパール地震支援募金・ ミャンマー/北東インド洪水被害支援募金のご報告～

主のみ名を賛美いたします。

昨年4月25日に発災したネパール地震のその後の回復を覚えてお祈りと献金をありがとうございます。5,619,384円(8月末締切)が献げられ、連盟会計の災害引当金から既に送金した額等を引いて、5,112,884円をアジア・太平洋バプテスト支援機構(APBAid)へ送金いたしました。

国の4分の1が被災するという大規模な震災となり、支援のために世界のバプテストがつながりBReadという支援ネットワークができました。その中で、APBAidは現地に寄り添って実現可能な支援計画を現地教会・団体と協議作成し、実施を見守り支える役割を担ってきました。

今回BReadは、募金者の希望と募金額に合わせて支援計画を組むシステムを取っています。APBAidが日本バプテスト連盟の意向を汲み、現地団体・教会と共に作成した計画が11月に完成しました。ネパールバプテスト教会協議会(NBCC)の支援機関である多目的共同体開発機構(MCDS)が、2016年1月から2年間カブルプランチョーク郡の村開発委員会(国の行政機関)が管轄するジャイシトク村(864世帯人口3900名)で支援を行います。

ジャイシトク村はネパール中央、カトマンズの北東54キロにあり、被災のひどい地区でありながら、国際NGO、地元NGOが一つもない場所であり、MCDSがその地区の支援を選択しました。村再生のため、①幼児教育、②生活再建、③飲料水の確保、④衛生環境の整備、に焦点を当てて行きます。(英語ですが、詳しい計画はHPを御覧ください)。具体的には、心のケアや防災・減災を学ぶクラス、4つの学校に幼児教育のスペースとプログラム、農業・畜産研修など、地域再生のために多様なプログラムが組み込まれています。すでにヤギ養育を通じた小口融資なども起こされており、被災からの回復と持続可能な共同体形成に向けて働きが続けられています。

ネパールでは昨年、王国廃止後初めての憲法が制定されましたが、それに伴う国内での混乱に加え、インドによる国境封鎖が加わり、物資不足が続いて被災からの再生もなかなか進まず困難の中にあると聞いています。どうぞ続けてお祈りください。

昨年7月4日に発生したミャンマー・北東インド洪水被害への支援募金には240,996円(9月末締切)が献げられました。初動としてAPBAidを通して50万円を募金しましたので、未達分は連盟一般会計の災害引当金からの支出となりました。現在APBAidを通して支援が行われています。

2016年になり、台湾で地震(2月6日)、フィジーでサイクロン被害(2月20日)が起こりました。今回は連盟災害引当金よりAPBAidを通して支援募金をお送りします。(文:井形英絵 国外伝道室長)



倒壊した家と土地のきわに、救援物資の錆びたトタンをかけただけの仮設で生活が続いている。



幼稚園の建物が倒壊してしまっただけのため、仮の場所のコンクリートの床でクラスが行われている。